

# パートナーSS

市民活動はまちの未来を創造する

## 特集

「たべものカフェ」  
大学生による  
大学生のための  
「食」のサポートの仕組み  
(2,3ページ)

### 展示スペースを使った防災イベント紹介



### NPOの米作りから始まった新酒発表会



## 市民活動センターと「共催」しませんか？

企画・広報・運営をセンタースタッフといっしょに！

### 子どもと関わる人たちを対象にした講座



### 広報協力でマスコミ取材も



オープンして今年で17年となる清水市民活動センターが当初からおこなっている「共催」という事業。団体の主体性を大切にしながら、会場の提供や広報協力、運営のサポートなどをおこなっています。

利用登録団体を対象に毎年募集し、提出された企画書に基づいて支援をします。SNSも含め、市民活動センターが連携する施設や団体、公的施設への広報始め事業企画に合った広報先の紹介、機器類の貸し出しや操作のお手伝いなど、実際に利用した団体からも好評をいただいているます。

令和5年度もすでに展示企画や講座、発表会などの共催事業がおこなわれています。申し込みは隨時受け付けていますので、是非ご活用ください。



静岡県立大学学生ボランティアセンター  
代表 栗田 彩花さん

静岡県立大学では、大学生自身が困っている仲間に對して食糧支援とヒアリングをおこなう「たべものカフェ」が定期的に開催されています。

5月9日(火)に開催された『たべものカフェ』(以下カフェ)の取材に行ってきました。この日は、42名の申込みがあり、多くの学生が食材を受け取りに来っていました。カフェを企画・運営をしている静岡県立大学学生ボランティアセンターの代表の栗田さん、OGの佐藤さんはじめボランティアの皆さんに、コロナの影響ではじまったカフェが3年が経過した今も必要とされている理由をうかがいました。そこには、支援を継続することで見えてきた「学生の貧困」がありました。

### コロナ禍ではじまったたべものカフェ

たべものカフェは、2020年の新型コロナウイルスの感染拡大の影響を危惧した静岡県立大学の津富宏教授他有志による『緊急支援プロジェクト』の一環としてはじめました。当時は、人と接触することがリスクとされていたので、「アルバイトがなくなった」「シフトを減らされた」という経済的に困っている学生がいました。加えて、大学の授業もオンラインになり、サークル活動も十分にできない期間が続き、「友だちができない」等精神的に孤立している学生もいました。これらを解決するために、学生ボランティアセンターが企画・運営を担い、同年7月17日に最初のカフェがはじまりました。



OGの佐藤さん

当時は、人と接触することがリスクと言われていたので、カフェの開催も大変でした。

### 食材選びも大事な作業

まずは、学生に渡す食料のリストを作ります。2週間生活できる量を目安に、栄養バランスを考えて決めています。季節の野菜を入れることを意識して、冬は「鍋」を作れる食材を選ぶなど配慮しています。料理する時間がないという学生もいるので、やはり簡単にできる食料の方が喜ばれますね。特に、パスタは喜ばれます。調理器具を持ってない学生もいるので食材選びは難しいです。

### 学生同士だからこそその関係性

利用する学生が来たら、まず名前を聞いて申し込みの有無を確認します。申込時に記入してもらった「ヒアリングシート」を元に、雑談を交えながら困っていることがないか等を聞いていきます。いきなり深く聞くことはありませんが、悩んでることがあればじっくり聞くこともあります。ヒアリング後に、食材を渡しています。活動のメインは経済的に困っている学生の支援ですが、関係作りも大事だと感じています。支援する/されるという関係ではなく、友だちのように接することで、話しやすくなることもあると思います。ここで知り合い、その後授業が一緒になったことをきっかけに仲良くなったり学生もいます。

## 3年間の活動で見えてきたこと

当初はコロナの影響でアルバイトができない学生の支援が目的でしたが、制限がなくなってきた今もカフェを必要としている学生がいます。そのほとんどが理系で、研究室に拘束される時間が長く、アルバイトをしたり買い物に行く時間がないという方が多いです。一部には、家族との関係が良くない、そもそも家庭に金銭的な余裕がないという学生もいます。話をする中で、専門的な支援が必要と感じた学生については、チラシを配って卒業生の専門家につなぐようにしています。



▲カフェで配布しているチラシ

## 活動の継続に向けて

去年までは人が多かったのですが、今は人手不足で、ボランティアに運営を手伝ってもらっています。ボランティアセンターとは別にカフェを手伝ってもらうためのボランティア組織の準備を進めています。カフェが学生同士の交流の場所にもなって欲しいので、是非気軽に手伝いに来てほしいです。



静岡県立大学学生ボランティアセンター

「頼り頼られる関係を社会の中にたくさんつくります」というミッションのもとに、①学生団体の中間支援、②ボランティアの紹介や企画、③学生の居場所支援の3つを軸に活動している。今回紹介したたべものカフェの運営、社会貢献系団体を集めて団体フォーラム等を開催しています。

pre.volunteercenter@gmail.com

## たべものカフェの流れ

### 1. 食材の搬入



食材は大学近くのスーパーに注文。当日、先生の車で取りに行きます。

### 2. 数の確認



大学の出納室の方と一緒に注文した数があつているか確認します。

### 3. 袋詰め



静岡市指定家庭用ごみ袋に1人分の食材を入れていきます。

### 4. ヒアリング



雑談を交えて、状況を聞いていきます。金銭面、学習面、生活面を中心にヒアリング。

### 5. 食材を渡す



ヒアリング後に食材を渡します。

### 6. 寄付食品を勧める



2週間分の食材の他に、一般から寄付された食品を勧めます。



カフェの紹介、学生や教員の声を掲載した冊子を作成

## 寄付のお願い



食材を購入するための資金、食品の寄付をお願いしています。詳細はQRコードから確認をお願いします。

# NPOワンポイント 「定款」、見直しましょう！

総会の通知はいつ出したらよいでしょう？

こんな問い合わせを受けることがあります。

「法人の定款を確認してください。」とお答えしています。

借入をしたいけれど、どこで決めたらよいですか？

という質問を受けることもあります。

「法人の定款を確認してください。」とお答えしています。

理事会の議事録に印鑑は必要ですか？と尋ねられたら、

「法人の定款を確認してください。」とお答えします。

法人を運営するための決まりは基本的に定款に記載されているはずですが、時間が経つにつれ細かな点が曖昧になり、思い込みで定款の記載と異なったことをしている場合があります。また、設立時にモデル定款を参考に作成して時間の経過とともに活動にそぐわないことや、変更した方が良い点も出てくることがあるかもしれません。総会シーズンも終盤という時期ですが、改めて定款を見直すことをお勧めします。

定款の変更は「定款」の定めに従い、総会の議決を経たのち所轄庁に届出をしてください。

3月31日で事業年度が終わった  
NPO法人のみなさん  
事業報告書等の提出は  
すみましたか？  
期限は7月7日です。



## センターからのお知らせ

### 講座 市民活動のための「どうする？WEB広報」

「紙の広報からステップアップしたい」「広報ツールの選び方がわからない」「手を広げて広報に行き詰まってる」皆さんに、NPOを支援し続けているセンタースタッフが皆さんの立場でお話します。

- 日 時：2023年7月15日(土) 10:00～11:30  
対面及びZoomでおこないます
- 定 員：20名
- 講 師：清水市民活動センタースタッフ
- 参加費：無 料

### 募集！17周年記念事業実行委員

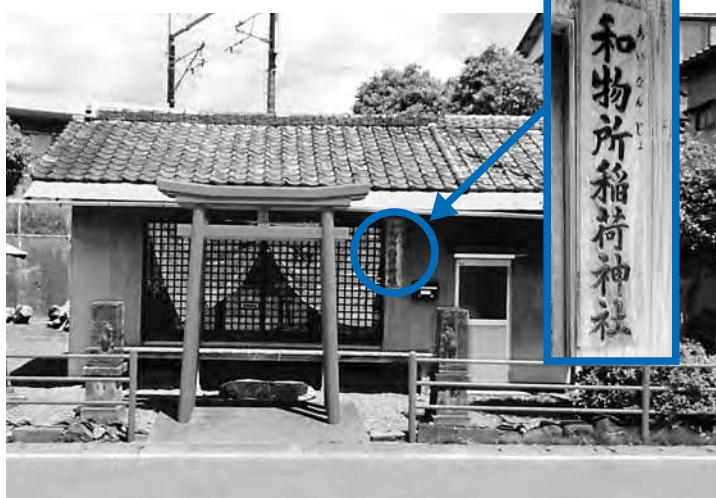
清水市民活動センターの創設17周年記念事業をおこないます。地域とつながり、団体同士がつながる楽しいイベントと一緒に企画・運営するメンバーを募集します!!

#### 第1回17周年記念事業実行委員会

- 日 時：2023年6月22日(木) 19:00～20:30
- 場 所：清水市民活動センター 第1会議室  
(オンラインでの参加もOK！)
- 内 容：概要説明、参加団体交流等
- 対 象：清水市民活動センター利用登録団体



## しみず・コレなみ？ その56



車で何度も通り過ぎ、気になっていたら立ち寄ることがなかった祠(ほこら)。気になっていたのは掲げられた神社の名前「和物所稻荷神社」。…読みない！

随分と時が経ってから「あいなんじょ稻荷神社」と読むことが判明しました。歩いて行ってみると漢字の横に確かにルビがふられています。

ここは別名お菊稻荷というそうで、昔このあたりで「和え物」を商っていたお菊という女性に因んでつけられた名まえとのこと。「あえもの」から「あいなんじょ」になったようですが、いわれを聞いてやっと理解することができました。

祠のある静岡市の県道67号は「北街道」と呼ばれる古い道です。ゆっくり歩いてみると、こんな「なるほど」という発見があるものです。